

第2学年2組 国語科実践事例

1. 単元名 どうぶつのひみつをしらべよう
 「ビーバーの大工事」

2. 指導によせて

〈児童の実態〉

本学級の取り組みとして、読むことについて物語教材では、叙述をもとに登場人物の気持ちに寄り添うことを大切にしてきた。「名前を見てちょうだい」では場面ごとにえっちゃんの気持ちが表れている叙述に着目し、その時のえっちゃんの気持ちを丁寧に考えていった。その際に役割を決め動作化を取り入れた音読をし、さらにえっちゃんの気持ちを味わえるようにした。そのことにより、子どもたちはえっちゃんの持つ勇氣、正しさに気付くことができた。また自分の気持ちをまっすぐに伝えることにより、お母さんにもらった大切な帽子を自分の力で取り戻せたこと、最後まで決してあきらめずに乗り越えた強さを感じ取ることができた。説明的文章では、子どもたちが初発の感想で持った疑問をもとにし、叙述にそって話し合うことで解決し、自分の思いを持つことを大切にしてきた。「たんぽぽ」では、花の茎が低く倒れるわけや晴れた日に綿毛が開くわけ等を叙述にそって話し合うことにより、たんぽぽが仲間を増やすために様々な工夫をしていることに気付き、自分の思いを持つことができた。また視覚的な資料を用いることにより、文章に書かれていることをよりイメージしながら考えることができた。

書くことについては、読み取ったことをもとに自分の思いをノートやワークシートに表現できるように取り組んできた。書く機会を多くすることにより、書くことに抵抗を持っていた児童も時間内に自分の思いを表現できるようになってきた。

話す、聞くことについては、「あすなろっ子の聴き方、話し方」を常に意識させて取り組んできた。またハンドサインを活用することにより、友達の意見を自分の意見と比べて聞けるようにし、話す際にも生かせるようにした。徐々に友達の意見とつなげて自分の意見を話せるようになってきている。

本単元においても叙述をもとにして正確に読み取ること、「ビーバーのひみつ図鑑」を作ることで読み取ったことを分かりやすく表現すること、読み取りについて自分の思いを持ち、友達と伝え合うことに取り組んでいきたい。そしてビーバーが自然界で生き抜くための知恵について十分に感じ取り、他の動物についての興味を持った読書へとつなげていければと考える。

〈身に付けさせたい言語力について〉

指導要領の中で特に本単元で力をつけたいと考えているのは、以下の項目である。

読むこと

- ア) 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- イ) 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。
- ウ) 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

話すこと・聞くこと

- ア) 大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞くこと。
- イ) 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。

本教材「ビーバーの大工事」はカナダ、アラスカ、北アメリカに生息しているアメリカビーバーを題材に、その生態を体の構造や機能と関連させて説明した文章である。日本では、動物園以外で見る経験はあまりない動物であり、ましてやダム作りの様子などほとんど知る機会はないと思われる。児童が持つビーバーの知識は少ないと予想されるだけに、ビーバーが体の構造を生かし家族と協力してダムを作りあげ、その内側に家族を守る安全な巣を作る姿に興味を抱き、感動することができるであろう。そこで以下の取り組みを中心として前述の言語力を身に付けさせたいと考える。

◎興味・関心を向上させるための取り組み

本教材にはビーバーの様子が分かる写真や挿絵がふんだんに使われている。それらの視覚的な資料を用い児童一人ひとりに「ビーバーのひみつ図鑑」作りに取り組みせたいと考える。図鑑作りに取り組み際には、叙述をもとに大事な言葉や文を書き抜き、分かりやすく工夫して表現させ、また自分の考えを必ず入れて児童独自の図鑑を完成させられるようにする。そのことで興味関心を持って読み取ることに加えて、ビーバーに対する自分の思いを明確にさせることができると思う。また、読み取りをもとに動物クイズ作りをすることで、他の動物への興味ある読書へつなげていきたい。

◎伝え合うための基礎的な学力を身に付けさせるための取り組み

「ビーバーのひみつ図鑑」に書いた言葉を伝え合うことで、自ずから本文中の大事な言葉に着目していくことになる。その際に必ず写真や挿絵と照応して説明させるようにする。そのことで、よりイメージしながら叙述を理解できると考える。また、ビーバーについての自分の思いを出し合うことにより、自分が気付かなかったビーバーの良さに気付いていけるであろう。伝え合う際には、「あすなろっ子の聴き方、話し方」や「声のものさし」を意識させ、ハンドサインを活用して友達の意見を自分の意見と比べて聞き、友達の意見につなげて言えるように取り組んでいる。また動物クイズ大会の際には対話の形で行い、互いに興味を持って集中して聞けるようにする。

◎支持的風土の育成のための取り組み

友達の意見のよさを味わい合えるように、友達の意見をテーマごとに一覧にまとめて配布したり、掲示したり紹介したりする。そのことで子どもたちは今まで知らなかった

友達によさに気付いていく。また、話す機会を多く持ち認め合うことで、みんなの前でなかなか大きな声で発表できなかった児童も徐々に自信を持って発表できるようになってきている。これらの取り組みを続けていきたい。

3. 単元の見どころ

- ・書かれている事柄の順序に注意して、正確に読み取る。
- ・動物について書かれた本を読み、読み取ったことをもとにクイズを作る。

4. 単元の指導計画（全14時間）

	学 習 活 動	教師の働きかけと留意点	評 価 規 準
第 一 次 ②	○「ビーバーの大工事」の全文を通読し、学習の見通しを持つ。	・教材文を通読して初発の感想を持たせる。 ・「ビーバーのひみつ図鑑」の目次や挿絵、表紙の準備をさせる。	〈関〉動物の生活について書かれた文章に興味を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。
第 二 次 ⑥	○ビーバーが木を切り倒す様子を読み取る。	・「ビーバーのひみつ図鑑」にどのように表現すれば分かりやすいか話し合わせる。	〈読〉叙述にそって、ビーバーが木を切り倒す様子を読み取っている。
	○ビーバーの歯のしくみを読み取る。	・「ビーバーのひみつ図鑑」にまとめ、ビーバーの歯の仕組みについて読み取らせる。	〈読〉叙述にそってビーバーの歯の仕組みについて読み取っている。
	○ビーバーが木を運ぶ様子を読み取る。	・「ビーバーのひみつ図鑑」にまとめ、ビーバーが木を運ぶ様子を読み取らせる。	〈読〉叙述にそってビーバーが木を運ぶ様子を読み取っている。
	○ビーバーがダムを作る様子を読み取る。	・「ビーバーのひみつ図鑑」にまとめ、ビーバーがダムを作る様子を読み取らせる。	〈読〉叙述にそってビーバーがダムを作る様子を読み取っている。
	○ビーバーのダムについて読み取る。	・「ビーバーのひみつ図鑑」にまとめ、ビーバーのダムについて読み取らせる。	〈読〉叙述にそってビーバーのダムについて読み取っている。
第 三	○安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取る。（本時）	・「ビーバーのひみつ図鑑」をまとめ、安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取らせる。	〈読〉叙述にそってビーバーの知恵を読み取っている。
	○「ビーバーのひみつクイズ」を作成する。	・「ビーバーのひみつ図鑑」をもとにクイズを作らせる。	〈書〉読み取ったことをクイズの問題と答えにして分かりやすく書いている。

次 ⑥	○「ビーバーのひみつクイズ」を交流し合う。	・「ビーバーのひみつクイズ大会」では、二人組で分かりやすく伝えられるようにする。	〈話聞〉クイズの問題を集中して聞いたり分かりやすく答えたりする。
	○興味を持った動物について本で調べ「どうぶつのひみつクイズ」を作成する。	・図書流通システムで集められた本の中から興味のある動物の本を選んで調べられるようにする。調べたページに付箋を貼らせる。	〈書〉本で調べたことをもとにクイズの問題と答えを考えて分かりやすく書いている。
	○「どうぶつのひみつクイズ」を交流し合う。	・「どうぶつのひみつクイズ大会」では、二人組で分かりやすく伝えられるようにする。「どうぶつのひみつクイズしゅう」にまとめる。	〈話聞〉クイズの問題を集中して聞いたり分かりやすく答えたりする。

5. 本時の目標

- ・「ビーバーのひみつ図鑑」をまとめることで、安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取ることができる。

6. 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価 の 観 点
1. 今日の学習のめあて（ビーバーのすのひみつをさぐろう）を確かめる。	・全員で音読をして今日学習するところ（P30L6～P31最後）を確認する。	（読） 「ビーバーのひみつ図鑑」にまとめることで、安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵を読み取ることができる。
2. 「ビーバーのひみつ図鑑」を書く。	・叙述に即して、図をもとに分かりやすくまとめられるようにする。	。
3. 「ビーバーのひみつ図鑑」に書いたことを発表する。	・本文の叙述は赤線、自分の思い、分かったことは青線で囲ませ、区別させる。	（発言、「ビーバーのひみつ図鑑」）
4. 今日の学習を振り返る。	・「ダムができあがって、水がせき止められる。」「内がわにみずうみができる。」「みずうみの真ん中に、すを作る。」「すは木と石とどろをつみ上げて作る」「まるで水の上にかんだしまのよう」「すの入り口は、水の中にある。」「およぎの上手などうぶつで	

	<p>ないと入れ ない。」</p> <p>「ときにおそわれないあんぜんなすを作るためにダムを作る。」の言葉を図と本文を照応させながら説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な巣を作って暮らすビーバーの知恵についての自分の思いを持てるようにする。 ・自己評価の表にマークを記入できるようにする。 	
--	--	--

7. 考察

◎興味・関心を向上させるための取り組みについて

子どもたちは「ビーバーの大工事」を初めて読んだとき、ビーバーの体の仕組みやダムや巣を家族で力を合わせてつくり上げることなど「ビーバーのすごいところ」をたくさん見つけることができた。また「ビーバーの大工事」についての疑問を持つことができたので、この疑問をもとに学習を進めていこうと考え、初発の感想を一覧にまとめ、いつでも見られるように「ビーバーのひみつ図鑑」の1ページ目に掲載した。これは、自分の疑問（読みの課題）が示されていることで自覚的にしかも主体的に読んでいこうとする姿をねらっていた。さらに、仲間の疑問を知ることで読みの課題の持ち方も仲間に学ぶ効果もねらっていた。

また、目次を話し合っただけで、その下には自己評価欄をつけ毎時間振り返れるようにした。目次は読みの課題と直結する。図鑑のページ立てが共通の読みの課題となるので、読みの交流をするときに伝え合いやすい効果をねらった。自己評価については読みを自覚化させ、不満足な子どもには個別の支援をすすめやすくなる効果をねらった。

「ビーバーのひみつ図鑑」作りについては、初めは話し合いながら児童と共に作った。この時間が後の図鑑作りに大きく影響した。まず叙述から分かることは赤鉛筆で囲み、自分が思ったことや考えたことは青鉛筆で囲ませた。このことにより、叙述のよみと自分のよんだ考えを分ける意識を育てるとともに、叙述を丁寧に読み取る姿勢とさらに自分の思いを大切にしようとする意識を持たせることができた。特に疑問を取り上げ、子どもたちが意見を出し合っただけで解決できるようにした。そのことで子どもたちは一つひとつの言葉を大切にし興味・関心を持続させて読み取ることができた。以下「ビーバーのひみつ図鑑」の目次に沿って振り返る。

①木を切りたおすビーバーのひみつ（3／14）

「川のほとりとはどこなのか」を分かりやすくするため川の絵を描くようにした。また「ガリガリ、ガリガリ」等の擬音語は吹き出しを活用するようにした。「みきのまわりが50センチメートルいじょう」が分かりにくそうだったので、木の幹を子どもの胴体に例えて

実際に測ると理解することができた。「地ひびき」について地面がひびくとはどのような状況なのかイメージさせた。そして木の堅さや重さに気付くことができ、さらに速さについて考えることができた。

②ビーバーのはのひみつ（４／１４）

「上あごのは」と「下あごのすどいは」との違いが分かるように、実際ののみを用意し、どのように木をかじるのか動作化をさせてイメージさせた。またかじる様子が分かりやすくなるように木やのみの絵を「ビーバーのひみつ図鑑」に描く姿も見られた。

③木をはこぶビーバーのひみつ（５／１４）

「切りたおした木をさらにみじかくかみ切る」理由を考えることで川へ運びやすく工夫していることに気づけた。また「ゆびとゆびの間にじょうぶな水かきがある後ろ足」をイメージするため自分の指を思いっきり開けて水かきのある場所を確認し、実際に水をかく動作をしながら考える姿が見られた。また「オールのような形のお」でどのようにかじをとるのか実際に画用紙を動かして向きを考えることができた。

④ダムを作るビーバーのひみつ（６／１４）

「木のとがった方を川のそこにさしこむ」と「石でおもし」をする理由を考えることでダムが流されないようにする工夫に気付くことができた。また「家族そう出でしごとをつづける」ことからお父さん、お母さん、子どもたちもみんなで力を合わせていることを感じ取り、「夕方から夜中まで」からビーバーが夜行性であることに気付くことができた。

⑤ビーバーのダムのひみつ（７／１４）

「高さ２メートル」を１桁物差しにより実際にイメージさせ、「長さ４５０メートル」を運動場の長さと比較してとらえさせると、感嘆の声が上がった。また立派なダムができた理由を考えさせることにより今までの学習を振り返ることができた。ただ「なぜ一方の川ぎしからはんたいがわの川ぎしまでダムがのびているのか」の疑問を取り上げられていれば、よりダムの役割について深められていたと考える。

⑥ビーバーのすのひみつ（８／１４）

「みずうみのまん中にすを作るのはなぜか」という疑問が出たので、そこを糸口に話し合いが展開していった。「ビーバーのてきはどんな動物か」「すとダムはどちらが先に作られるのか」「なぜダムを先に作るのか」「すの入り口が水の中にあって２つあるのはなぜか」これらの子どもたちから出た疑問について考える中で、ダムが水をせき止めて水の量を調節すること、だからダムを先に作って巣を作ること、敵がおそってこないように湖の真ん中に巣を作ること、万が一敵が巣に入っても逃げられるように入り口が２つあること等すべて「てきにおそわれないあんぜんなす」を作るための工夫につながることに気付くことができた。そしてビーバーが自分の命、家族の命を一生懸命守っていることを感じ取ることができた。

これら①～⑥の読みは全て子どもの発言をもとに板書に図鑑の1ページをイメージさせながら位置づけていった。子どもの伝えたい気持ちを重視するので叙述のあとさきは構わず板書した。1時間の学習の終わりにはそのページの図鑑が子どもの読みでいっぱいになり、全体像が浮かび上がった。子どもたちは自分たちの伝え合いの充実により、図鑑が完成していくことに満足感を積み重ねていることがその子どもの様子からもうかがえた。

◎伝え合うための基礎的な学力を身に付けさせるための取り組みについて

伝え合うためには「読む力」「書く力」「話す、聞く力」が必要になってくる。一つひとつの叙述を丁寧に読み取ることで「読む力」をつけること、そして気付いたことや思ったことを書く機会を多くもつことで「書く力」をつけること、このことにより話したい内容をもつことができる。本單元では一つひとつの叙述を丁寧にイメージさせながら読み取らせること、その中から出た子どもたちの疑問をもとに考えさせることを大切にしていた。そして意見を出し合う中で自分の疑問を解決できる経験を積ませると子どもたちの伝えたい気持ちが高まってきた。

「ビーバーのひみつ図かん」を書くときには、挿絵を活用し図と照応してまとめられるようにした。また挿絵の拡大図を黒板に用意し、指示棒を用いることにより図と照応させながら説明することができた。そして「あすなろっ子の聴き方・話し方」や「声のものさし」を意識して分かりやすく話すことができ、ハンドサインを活用し友だちの意見と比べて聞くこともできた。

◎支持的風土の育成のための取り組みについて

友達の意見の良さを味わうため、本單元でも初発の感想をテーマごとに一覧にまとめて配布した。すると自分が気付かなかったビーバーのすごいところに気付いたり、友達の疑問について一生懸命考えて意見を言ったり、「自分も同じことを思ったよ」と声をかけたりする姿が見られた。また単元の終末、出口となる活動として位置づけた「どうぶつのひみつクイズ」では自分がクイズをつくりたい動物を選んでその図書を読んだ。その図書の叙述からその動物ならではの習性や体のしくみのふしぎをクイズにする子どもが多く見られた。ことばを選び、クラスの仲間を相手意識におきクイズを出したり答えたりする場がきっと楽しいだろうとイメージしながらクイズの問題作りに取り組んだ。友達と対話形式でクイズを出し合い、分かりやすい話し方を工夫して話すことができた。さらに、進んで友達に声をかけ多様な組み合わせで生き生きとクイズを出し合う姿が見られた。学習後の感想には「2年2組全員、そして先生で学習できたのでよかったです。」という表現も見られた。